



学校教育目標
自分と相手を大切にし、
考えて行動する名瀬っ子

名瀬小だより

9月号

令和8年8月31日
横浜市立名瀬小学校
校長 宮崎 博隆

いい顔

校長 宮崎 博隆

校門に立っていると、久しぶりに子どもたちの様々な表情に出会いました。友達との再会を喜ぶ顔、どこか誇らしげな顔、少し眠そうな顔。それぞれの表情から、この夏に積み重ねてきた経験が伝わってくるようでした。

この夏は、熊本県を中心とした地震や、千葉県、北陸地方での集中豪雨など、大きな自然災害が発生しました。お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。自然災害の前では、私たちの当たり前の日常が一瞬にして失われてしまうことがあります。その現実につれ、子どもたちの元気な声が校舎に響くこと、友達と学び合えること、地域の皆様に支えられながら学校生活を送れることの尊さを改めて感じました。当たり前と思える毎日に感謝しながら、一日一日丁寧に過ごしていきたいと思います。

全国高校野球選手権大会をテレビで観戦する機会がありました。神奈川県代表の横浜高校はもちろん、智弁和歌山高校と健大高崎高校による決勝戦も見応えのある試合でした。私が特に心を動かされたのは、開会式で行われた八王子実践高校主将による選手宣誓です。選手宣誓で語られた「いい顔をして野球をしよう」という言葉が強く印象に残りました。

私は最初、「いい顔」とは笑顔のことだと思いました。しかし、宣誓で語られたのはそれだけではありませんでした。試合前の緊張した顔、真剣な顔、悔しさをこらえる顔、そして感謝にあふれた笑顔。そのどれもが「いい顔」なのだと話していました。一生懸命な姿には、その人らしさや努力が表れます。夢中になっている顔、友達の話真剣に聞く顔、難しいことに挑戦する顔。そんな姿は周りの人の心を動かし、元気や勇気を与えてくれるのだと思います。

4月からこれまで、名瀬小学校でもたくさんの「いい顔」を見ることができました。名瀬リンピックで最後まであきらめずに走る顔。友達と話し合いながら学習に取り組む顔。里山で目を輝かせながら自然とふれ合う顔。1年生の手を引いて歩く上級生の顔。どの顔にも、その子なりの成長や頑張りが表れていました。

私は、子どもたちだけでなく、職員にもたくさんのいい顔を見せてほしいと思っています。先生たちが笑顔で真剣に仕事に向き合う姿は、きっと子どもたちのいい顔につながっていくはずです。

子どもたちは、この夏に様々な経験を積み、ひと回り成長して学校へ戻ってきました。これからの日々も、一人ひとりが自分らしく挑戦を続けてほしいと思います。そして、名瀬っ子のいい顔があふれる学校であり続けたいと思います。